兵庫県立青雲高等学校　平成29年度学校評価結果

域	学校運営							学校運営							学校運営							課題教育			
重点目標	開かれた学校づくり		生徒指導					進路指導			教職員の資質向上		危機管理体制の整備					基礎・基本の定着		事務部と教職員との連携		安全・健康教育		人権教育
項目	家庭や地域の人々への情報発信		生徒指導方針の確認と指導体制の推進		生徒の内面の理解を図る指導の工夫			進路指導体制の充実	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上		実践的指導力の向上	計画性を持った研修の実施	実効ある学校マニュアルの策定	家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上		生徒の学力の把握と評価基準の設定		事務部と教職員との連携による生徒支援の充実		事故防止の工夫と救急処置の対応力を高める	健康に関する認識を高める取組み	人権教育推進体制への取組	
実践目標	学校ホームページや「青雲通信」などの定期的な発行物の充実を図り、学校・家庭・地域との連携を行う。	オープンハイスクールや保護者授業参観、学校行事や地域貢献事業などを通じて、家庭・地域との連携を深め、本校教育活動の理解を深める。	安全な学校、より健全な学校の創造を目指し、校門立番や校内巡視の徹底、関係機関との連携、校内会議の調査を図る。	生徒の学校行事への積極的な関わりや参加数の増加のための方策を研究・工夫し、帰属意識の涵養を図る。	各学校行事の内容を工夫し、生徒が地域と関わり、貢献できる機会を増やす。	キャンパスカウンセラーと教職員との情報交換を進め、生徒理解の共通認識を深める。	相談窓口より教育相談に関わる掲示物、学校HP等を通して、カウンセリング情報の広報に努める。	定期発送で「進路のしおり」を郵送するとともに、各種説明会等にて情報の提供に努める。	進路指導部と担任が情報を共有しながら、協力して生徒の進路実現を支援する。	関係機関と連携してインターンシップを実施し、生徒の進路意識を高める。	正規就労の意味や大切さ、就労のしかた等を十分に理解させ、生徒の就労への意識を高める。	スクーリング時において、学校評議員による授業参観を実施する。また、生徒の状況把握も兼ねて、管理職を含む多数の教員が授業教室を適時巡回する。	当面すべき課題に対し、各分掌が会教職員対象の研修会を企画し、計画的に実施する。	本校の実情に応じた危機管理マニュアルを作成する。	『通信制高校に合った家庭・地域・関係機関との連携体制』を検討し、工夫し、防災に対する教職員の安全対応能力の向上を図るための取組みを行う。	災害発生時に生徒が的確に判断でき、安全な初期行動がとれるように、防災管理組織と実際の任務について確認を行う。	防災マニュアルの策定や交通安全に関する研修会の開催等による、自他の生命を尊重する意識を高め、より具体的事例をもとにした HR指導が行えるようにする。	本校の実情に合わせた基礎学力の定着を目指した学校設定科目を設置し、上位科目の学習につなげる。		事務部と教職員が連携して、備품への配置をしながら教育活動を進める。	受講料や学校徴収金の徴収を付とめ、レポート・定期発送の受付渡しや各種の事務手続きについて事務部と教職員の連携を密にし、生徒の学習が順調に進むよう支援する。	安全点検を定期的に行い、救急処置などの安全教育の研修会を実施する。	健康診断の受診率を高め、事後指導の徹底を図るとともに、保健室利用者への丁寧な対応に努める。	長期的な視野に立ち、4年間を見据えた人権学習を進める。今年度は、地域が起こした事件の行動を学び自分や周りの人の命を守る方法を考えることを通じて人権に対する意識を高める取組を行った。	多様な生徒が在籍する現状を踏まえ、各部・各教科と緊密な関係を上り、生徒一人ひとりを大切にする人権教育推進体制を構築する。
成果（%）	3.88(昨年度4.13)	3.98(昨年度4.24)	4.08(昨年度4.36)	3.32(昨年度3.64)	3.00(昨年度3.75)	3.68(昨年度4.13)	3.68(昨年度4.24)	4.05(昨年度4.20)	3.82(昨年度3.90)	4.00(昨年度3.86)	3.52(昨年度3.71)	3.65(昨年度3.56)	3.68(昨年度3.94)	3.32(昨年度3.33)	3.16(昨年度3.30)	3.45(昨年度3.48)	3.29(昨年度3.83)	3.91(昨年度3.94)		3.59(昨年度4.05)	3.78(昨年度4.36)	3.88(昨年度4.36)	3.91(昨年度3.94)	3.32(昨年度3.60)	3.36(昨年度3.56)
成果	・学年だより、学級通信等の定期発送物や「青雲通信」などで生徒・家庭に必要な情報や学校の行事や生徒の様子を継続的に発信した。 ・学校ホームページは内容を常に更新し、最新情報の発信に心掛けた。本校のホームページは分かり易いと保護者から評価された。	・平成28年度から保護者授業参観をオープンハイスクールと別日程で実施し、多くの保護者や学校の行事や生徒の様子を継続的に発信した。	年間を通じて校内での目立った問題行動等はなかったが、残念ながら校内で喫煙をしている生徒を数回注意したという事例があった。また、トイレに吸殻が落ちているのが数回発見されたため、注意喚起の掲示物を設置した。また、生徒を迎えに来た自動車が校門前付近に長時間に亘って駐車し、近隣の住民に迷惑をかけ、警察から注意を受けた。	春の交流会は、目面については例年と同じく穏やかな天候に恵まれた。文化祭も天候に恵まれ、来場者も多く、盛り上がりを見せた内容であった。多くの生徒や来訪者が心地よくすごされたため、注意喚起の掲示物を設置した。また、生徒を迎えに来た自動車が校門前付近に長時間に亘って駐車し、近隣の住民に迷惑をかけ、警察から注意を受けた。	年に3回、学校周辺の清掃作業を行う青雲クリーン作戦は、地域貢献事業として定着した感がある。また、執行部のメンバーによる東日本震災ボランティア(6名)・九州北部豪雨災害ボランティア(5名)を現地にて実施、また、藤木駅前での熊本震災に対する募金活動(2回)、校内での東日本・熊本震災に対する募金活動(3回)を実施した。今後も実施することが望まれる。	相談窓口が1つスムーズに分かれば可能となっている。 また、カウンセラーとして「臨床心理士」と「ソーシャルワーカー」の双方を配置することで、相談内容を深めることができている。具体的には、2理面以外に生活面・福祉面からも情報提供を受けられ、生徒を多角的に理解できる。	年間4回「相談窓口より」を発行して、カウンセリングの実施日程を知らせるとともに、「カウンセラーからのお知らせ」や「グループワークの内容」なども載せ、生徒にとっても身近なものとなるよう工夫した。また、学校HPに子約状況を掲載したり、当日のキャンセルで空きが生じた場合も、対応できるように相談室前に予約状況を掲示したりして、相談室の活用促進に努めている。	「進路のしおり」を読んでいるが、44%から46%へと微増ではあり、過半数には満たないので、さらにHRでの呼びかけ等を通じて働きかける必要がある。また、青雲高校に進路指導室があると回答した生徒は本年度52%であった。今後も周知活動等を強めて、進路指導室の活用しやすい状況を作っていく必要がある。進学説明会、就職説明会については1ヨ1ヨ年並みの出席者数であったので、さらに周知活動等に取り組みたい。	クラス担任と進路指導部との連携は上期密になったが、今年度、就職を希望していながら、その中には就職に対する意識がやや低い生徒がおり、コミュニケーション力にも課題のある生徒も昨年より多く見受けられた。また、欠席等を持つ生徒の就職希望者については特別支援教育委員会との連携を強め、必要に応じてミニ・ケース会議を行い、担任の要請があれば、当該生徒との就職相談を実施した。	就職希望者を対象に、ハローワーク体験ツアーを実施し、4名の参加があった。ハローワーク神戸では職業紹介の専門家から職業やや就職への心構え、今年度の求人状況について講話を聴き、ハローワークの利用の仕方などを学んだ。若者しこと倶楽部では「人としてのコミュニケーション」の重要性について解りやすく学べた。「トキメキ仕事体験ひょうごカレッジ」では延べ10名専門学校校の体験講座への参加があり、概ね、好評の感想が寄せられた。	就職説明会や就職セミナー等で正規就労に就く意識や重要性について触れた。非正規就労が40%にもなろうとしている現実と本校生の場合、その可能性が高いであろう実情を考え併せながら、長期アルバイト等を「とりあえず」という形で安易に選択しないよう強調していきたい。	スクーリングは教職員が交代で校内の巡回を実施し、生徒たちのケアにあった。スクーリングは昨年度より1,更に落ち着いた雰囲気で授業が展開されている。生徒たちも真剣な眼差しで授業プリントを見つめ、勉学に励む姿が見られた。	本校の実情や課題を的確に把握し、各担当が研修会を計画的に実施した。また、外部の教育相談機関と連携し、生徒の直面する問題等について、情報交換を行なった。外部機関のスタッフを職員研修の講師として招き、生徒の支援について具体的な支援事例を聞くことができた。その結果、全教員及び事務職員が参加し、有意義な研修会となった。このような取組を日々重ね、職員の意識が更に高まった。	本校の実情にあったマニュアルが作成されて今年度で5年目を迎えた。通信制は毎日生徒が学校で生活することがないので、スクーリング時での緊急事態にいかにマニュアルを生かせるかが課題である。また、職員研修等を通じて、職員の意識が高まった。	生徒が毎日登校しないので、家庭や地域との連携による危機管理体制については課題が多い。外部関係機関との連携については体制はしっかりできている。 なお、毎日登校しない部分があるが、保護者や中心に、職員の危機管理意識の高揚が図られた。	今年度も最初のホームルームで「避難時の注意」のプリントを使用して生徒に説明し、災害発生時の避難について確認を行った。ホームルーム欠席者には、「避難時の注意」プリントを定期発送に同封して通知した。また、新たな防災管理組織をの任務を金職員で確認し合った。	今年度も、現代の若者が陥りやすい薬物被害やネット被害の実態について、命の大切さという観点から、薬物防止とスマートフォンに係るネット被害に重点を置いた、長田警察・スマートフォン会社から講師を招聘し、HRにて生徒向けの、研修会を実施した。より現実的に自分を守る上で、大切な知識を得ることができた。	学校設定科目について、大枠はここ数年、変化はないが、内容を現在の生徒に対応するものにすることが、各教科の課題となっており、それについての努力が実りつつあるものと言え上う。上位科目の内容について、通信制の実情に合わせた精選が図られている。		今年度も、空調機の馬設定温度の遵守、デマンド警報発令時の節電、印刷部数の見直しによる排紙の削減、蒸紙利用の促進に積極的に取り組んだ。また、事務所受付には絵入り案内を飾り、少しでも生徒の心が和むよう配慮がなされた。また、草花プランターを玄関のみならず、校内に設置し、より入学校環境づくりを行った。	今年度も事務員だけでなく事務部の職員も交代で職員会議に出席した。これにより、各部からの報告・依頼事項を直接聞けるようになり、学校の情勢や生徒の様子について事務部と職員の連携を密にしたことも、事務の効率化に繋がった。また、事務所受付には絵入り案内を飾り、少しでも生徒の心が和むよう配慮がなされた。また、草花プランターを玄関のみならず、校内に設置し、より入学校環境づくりを行った。	毎月の安全点検には上り、細心の注意を払った。教室等の問題にも、教職員が力を合わせて解決に臨んだ。その結果良好な学習環境の整備ができた。不良箇所については、事務室が迅速に対応し、不適箇所の整備が行えた。また、全職員が入口呼吸用携帯マスクを携帯し、万一のための救急処置が取れるように努めている。	5月実施の健康診断受診率は、1年次が57%(昨年より↑)・2年次約54%(昨年より↑)・3年次約53%(昨年より↑)・4年次約31%(昨年より↑)であった。尿検査受診率は、本校約47%(昨年より↑)、腎力検査38%(昨年より↑)であった。今年度も、胸部レントゲン間接撮影に関しては、1年次生以外にも自費による受診機会を設け、若干名ではあるが未受診者減少に努めた。健康診断終了後には、個別に治療勧告を行った。また、「保健だより」を通じて生徒の健康への関心を高め、保健室利用の生徒に対しては、丁寧な対応に努めた。		今回のHRでの学習は役にたちました。	東日本大震災の映像を視聴することにより命の大切さを知ることにより、同様の災害が起きたとき、災害弱者に対するサポートの手助けをしたいと答える生徒アンケートもあり好反応であった。	東日本大震災の映像を視聴することにより命の大切さを知ることにより、同様の災害が起きたとき、災害弱者に対するサポートの手助けをしたいと答える生徒アンケートもあり好反応であった。
生徒アンケート	「青雲通信」などの定期的な発行物や学校HPは役立っています。	学校行事や文化祭・クリーン作戦などに参加しました。	禁煙指導や校内巡視を通して安全な学校づくりが進められていると思います。				キャンパスカウンセラーがいるので安心感があります。	※2～4年次生への質問です。 「進路のしおり」を読んでいます。	青雲高校に進路指導室があることを知っていますか。	※2～4年次生への質問です。 進路の行事について案内を見ています。	※2～4年次生への質問です。 「進路のしおり」を読んで、働くことの大切さや仕事の探し方が分かりました。				災害が発生したとき、校内の避難経路を知っていますか。				青雲高校で、どのようにすれば単位が修得できるか、分かりやすいですか。	他の学校にはない入門科目(英語・数学・社会)があって、学習しやすいと思いますか。		事務室の窓口や電話での説明は分かりやすいですか。			今回のHRでの学習は役にたちましたか。	
成果（%）	3.91(昨年度3.88)	2.48(昨年度2.48)	3.60(昨年度3.60)				2.54(昨年度2.54)	2.84(昨年度2.84)	3.22(昨年度3.22)	2.72(昨年度2.72)	2.96(昨年度2.96)						2.28(昨年度2.21)				3.84(昨年度3.76)	3.75(昨年度3.74)		3.65(昨年度3.60)			4.58(昨年度4.46)	
学校関係者評価	定期的な発行物や学校HP、各種の行事などを通じて家庭や地域との連携を深めていると思いますか。	安全で楽しい学校生活を送ることのできる環境づくりが進んでいると思いますか。			生徒の内面を理解し、支援する努力がされていると思いますか。													通信制の学習システムを理解させ、基礎基本に絞って生徒の理解を助ける努力がなされていると思いますか。								
評価	・日々の積み重ねでしょうか、学校からの情報発信は年々と努力がなされていますが、学校行事のひとつ、文化祭は楽しく温かい空間と地域との連携を感じるもので、毎年楽しみにしております。生徒みなさんたちの表情が活き活きとしておられるのが印象的でした。少しずつ参加人数が増えると良い思います。 ・オープンハイスクールや授業参観、文化祭などを通じて家庭や地域との連携を深めていると思います。 ・文化祭は地域の子供たちも楽しそうに参加している。生徒たちの日ごろのバンド、ダンスの練習を、夏の暑い日にも友達を集まって頑張って練習していた。楽しい学校生活の思い出につながっている。 ・青雲通信やHPを通じて、家庭や地域と連携を深めていると思います。 ・「青雲通信」が定期的に発行されていることは、大変喜ばしいです。 ・生徒のアンケート結果を見ますと、発行物や学校HPは評価できると思うが、行事への参加については、「参加しなかった」「参加できなかった」について分析できた方が良いと思う。 ・情報をどう扱うかは日々、研究が必要だと思います。	・多様性に富んだ生徒さん一人ひとりに寄り添い、見守り、導くというご指導には大変ご苦労があるかと思いますが、学校は何より、安全で安心できる場であるかと思います。その為、「いじめ」などの調査からも校内は落ち着いている様に見受けます。 ・生徒の帰属意識や社会貢献活動への参画の機会など、これからとっても必要な指導の努力されていると思います。 ・校内巡視などを通じて安全な学校づくりが進められていると思う。 ・学校行事の内容を工夫することにより、生徒が地域と関わり、貢献できる環境づくりが進められていると思います。 ・環境づくりが進んでいると思う。全日制の高校と違い、色々な制限があり、逆に生徒は多様で、幅広いいろいろな状況を考えると、よく進んでいると思います。	・キャンパスカウンセラーの存在自体が知られていないというのは、必要にする生徒さんがよかったいいことかも知れませんが、生徒さんがいつでも誰でも相談に行けるかする工夫が必要だと思います。(オープンルームのように、まずは気楽に敷いてみれたらいろ必要など) ・キャンパスカウンセラーにより、生徒はいろいろな相談に乗ってもらうことができた。生徒を内面理解し、支援する努力がされていると思います。 ・支援する努力がなされています。自己評価の通り、大変な努力がされています。生徒アンケートにより、全生徒が知ることにつながりました。先生方の努力に敬意を表します。また、アンケート実施は重要だったと思います。生徒への安心感を与えることになりました。 ・努力はされていると思うが、生徒への周知が必要と思われる。 ・特に若い生徒には精神的に大きな支えになり、将来に向けての人格形成にも大きく影響すると思うので、キャンパスカウンセラーの存在をもっとアピールし、相談出来る様、工夫と努力を続けられたい思います。	「進路のしおり」の紙面の工夫をし、生徒にわかりやすくし、また各種行事等の案内は目立つような書式やレイアウトにしていきたい。また、クーリング時のHRでの連絡が比較的有効なので、さらに積極的にHR担任に協力していただいて、告知活動をしていくとともに、併せて就職・進学についても全体説明や個別相談に取り組んでいきたい。	生徒の3ヨ3ヨ(スクーリング)で登校した時にしか、担任や連絡指導部に就職相談や求人票の閲覧(WEB等)をしようとしないのが実情である。スクーリング時は教員側はスクーリングやサポートの担任業務に追われて、時間が取れにくい状況なので、極力、就職という重要なことなので、平日にも時間を割いて登校し、職場の仕事職活動を従業員に進めていくように働きかけたい。また、その機会をできるだけ様々やることにより、個別に就職十分間の対策事やルールの重要性を認識させていくことにもつながると期待している。 今年度、特別支援委員会との連携をやったが、就職を希望する生徒に関する情報の共有化をさらに深化させ、そのことにより実際的な就職支援が進むようにしていきたい。	来年からは保護者にもハローワーク体験ツアーにも、積極的に出席を呼びかけする予定にしており、その中身もさらに検討しているところである。保護者同伴での参加等を促すことで、家庭での就労意識の意識が高まり、本人の就職に関する家庭の協力がより得やすくなると期待している。そしてそのことにより、積極的な就職活動につながり、本人の就職希望が実現できればと考えている。	今年度同様、来年度も、生徒全体には、「進路のしおり」や「就職説明会」「進路セミナー」等での正規就労と非正規就労に就くための方法について触れるとともに個別にもより詳しくその説明を行い、具体的には「学校紹介」による就職が正規就労への近道なので、「学校紹介」のルールを認識させた上で、できる限り「学校紹介」を進めていく予定である。	スクーリング時は始と終の教職員が授業を一斉に行うため、教師同士が互いの授業を見学し合う時間がとてもよい状況である。そのため、各教科のスクーリング風景をビデオに収録し、スクーリング後皆で視聴し、互いの授業に対する感想等、意見交換を行っており、「NHK高校講座」のモニタリングを全教職員で行い、面接指導やスクーリングに使用する補助教材等の改善や新たな教材の作成に役立てたい。	年々、生徒の要なる多様化が進んでいる。この現状を踏まえ、校内教職員の研修会の更なる充実を図るとともに、今後益々外部機関との連携を行っていきたい。様々な悩みを抱える生徒達のセーフティネットになるべく、教職員一丸となって、生徒理解を深め、生徒が健やかに学校生活を送れるよう、頑張っていきたい。	校舎内の安全点検を更に見直し、より効率のよいマニュアル作りを目指したい。	毎日生徒が登校しない通信制学校では、生徒たちが普段から地域との密接な交流を図ることは難しい。そのため、毎日学校で勤務している教職員が地域の防災訓練や行事等に参加するなど、新たな取組を企画し、各機関との連携を深め、生徒の安全意識を高めていくことを考えたい。	スクーリング時は長田高等学校の校舎を全面的に借用していたため、本校の校舎のみならず、長田高等学校の災害時の避難経路や避難場所を確認し、スクーリング時での災害発生・緊急事態を想定し、生徒および教職員の避難訓練およスムーズに行えるように努めたい。	全生徒が一同に会して、避難訓練等の研修講座企画できないため、全教職員に災害等の安全確保のための研修会、訓練を実施し、各HRで、生徒に更に周知し、徹底できるよう、体制を整えたい。	通信制のシステムについて生徒の理解を促す努力は、創立以来の課題であるし、本校の根幹に関わる問題である。ゆえに何年も試行錯誤が続けられてきたが、未だ、現在の本校のあり方があるのだろうと思われる。劇的な改善策があるとは思われないが、著実な改善は図られていると思う。今後もこの歩みを続けていきたい。		本校が、レポート等、使用する紙類の量が増殖に影響を与えるものの中で一番のウエイトを占めている。しかし、紙は生徒達との大切な通信ツールでもある。教育の質を落ちすことなく教育活動を続けていくために、今後も教職員ともに創意工夫を続けて使用料の削減に取り組みたい。	生徒や保護者の問合せ等が毎日とでも多く、電話や窓口での応対に配慮を必要とする生徒や、介助が必要な生徒情報の共有等をに心がけているが、今後更に努力を重ねて行きたい。 高等学校等就学支援金や高校生等奨学給付金、保健安全関係の給付金、各種奨学金の案内など生徒の学習を支援できる情報を積極的に発信し、多くの生徒の学習支援を行っていきたい。	近年、様々な体調の生徒が増えていることを踏まえ、教職員の救急処置の対応力を高めるための研修会を実施していきたい。また、毎月の安全点検により、不適箇所の迅速な整備に努め、生徒及び教職員の安全に留意していきたい。	生徒に健康診断の重要性を説え、受診率のアップに努める。 「保健だより」を通じて、疾病予防や予防接種等の勧奨に努める。 保健室利用等についても職員の共通理解を深め、生徒の保健安全に取り組む。	今までの本校での実施履歴を考慮しながら、も最新の社会情勢も考慮しながら生徒に優先順位が高いと思われるテーマを選択する。	委員会からの画一的な授業に頼り過ず、対象生徒を充分熟知されている担任の裁量が発揮される余地が時でるよう早期から計画に取を取り組み、各担任の裁量が十分発揮できる余地にも配慮できるようにしたい。
今後の方策	・青雲通信の内容をがとても良いものになっているので、今後は年次通信等を更に充実させ、生徒や保護者などに青雲高校に対する理解をより深めてもらう。 ・今年度はオープンハイスクールに加え、学校説明回を1回実施することができた。本校に転学を考えている生徒の皆さんや保護者の方にご参加頂けた。今後も学校説明会の回数を年に数回設けるなど、本校の更なる広報活動に励みたい。	1年次生保護者会はまだかない状況である。年々、参加者が増加している。今後も更に、新入学生が学校生活に適応し、意欲的に活動できるための一助となるよう内容充実を図りたい。また、文化祭等の生徒の行事への参加者も、年々増加傾向にあるが、生徒会と力を合わせて、素晴らしいものにしたい。通信制ではお行事が果たす役割は大きく、今後更に様々な内容を検討していきたい。	校門付近に駐停車する家族や友人の自動車については、ポスターや配布物等での注意喚起を継続し、警察との連携も密にする。 今年は特に問題にならなかったが、外部の者を学校に連れて来る件については、入学式、始業式等で引き続き注意喚起を徹底する必要がある。また、問題行動については、各年次と連絡を密にし、連携して生徒の指導に当たる。	今年度の取り組みを検証し、来年度以降に生かすことができる方策や、対処の仕方等をできる限り計画の段階から要項等に織り込むようにする。行事参加の意識を高めるためにも、ホームルーム活動の充実を図る方策を検討する必要がある。	引き続き安全面での配慮を怠らず、学校周辺地域の清掃活動を恒例行事として位置づけ、生徒会執行部以外の生徒の参加者が増加するよう、広報活動を活発に行う。 ボランティア活動が生徒会のみの活動にとどまらず、全校生徒が参加できる雰囲気作りと意識の高揚に心掛けたい。	生徒理解のために、カウンセラーを活用した教職員全体への研修会の実施以外に個別のケース会議などの機会を増やし、カウンセラーと教職員の間での共通認識をより深める。	「相談窓口より」でカウセリング実施日程やグループワークの内容などのお知らせ以外に「グループワークの事後報告」や「ストレスチェック」など生徒の興味・関心が高まる内容を掲載し、生徒にとってカウセリングが より身近なものとなるよう にする。	「進路のしおり」の紙面の工夫をし、生徒にわかりやすくし、また各種行事等の案内は目立つような書式やレイアウトにしていきたい。また、クーリング時のHRでの連絡が比較的有効なので、さらに積極的にHR担任に協力していただいて、告知活動をしていくとともに、併せて就職・進学についても全体説明や個別相談に取り組んでいきたい。																							